

Ⅱ 事業報告

1. 教職員を取り巻く環境の変化

- (1) 2013年度における主な管理者就任は次の通りである。まず、高橋義文先生が聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科長及び聖学院大学総合研究所長に就任した。聖学院大学では、2013年11月末で阿久戸光晴学長の任期が満了となることから、管理者選出規程に基づく選出が行われ、姜尚中全学教授が2014年度より新たな学長に就任すること、2013年度末までは阿久戸光晴先生が学長代行を務めることを決定した。女子聖学院中学校高等学校では校長補佐に城築昭雄先生が就任した。また、聖学院小学校教頭に聖学院幼稚園長の佐藤慎先生が兼務就任した他、阿久戸多喜子先生が校長補佐に就任した。一方、聖学院大学附属みどり幼稚園では、聖学院副院長・キリスト教センター所長の山口博先生が園長代行に、山川秀人事務総局長が副園長にそれぞれ兼務就任した。事務では、管理局長に田邊純一職員、学事局次長に大島陽一職員が就任した。
- (2) 2013年度は、2012年度に刷新された事務組織体制の枠組みを堅持する一方で、厳しい財政状況に鑑み、倫理綱領の制定や、人件費の見直しや複雑化したルールの簡素化に向けた取り組みを始めた年でもあった。
- ① 聖学院憲章(倫理綱領)の制定
本法人の理事及び監事をはじめ全教職員に対し、「寄附行為」及び「聖学院教育憲章」、「聖学院大学の理念」を行動規範とすることを目的とする聖学院憲章(倫理綱領)が制定された。
 - ② 「聖約専任教職員」を従来型「専任教職員」と同一処遇へ
2003年度から始まった「聖約専任教職員」制度を廃止して、従来からの専任教職員と同一の人事処遇にした。
 - ③ 人件費の見直し
厳しい財政状況を乗り切るために、苦渋の選択ではあったが両労組と協議を重ねた上で以下の人件費の削減を行った。
 - ・賞与支給月数は国家公務員及び東京都職員の基準月数を初めて下回る月数となった。
 - ・聖学院中学校高等学校の出張旅費にかかる手当額を削減した。
 - ・研究費及び研修費は各校で適用の相違はあるものの、当初規定額を下回る使用状況であった。
 - ・理事報酬及び管理者の役職手当・職階手当(一部除く)を20%から50%の範囲の削減率でカットした。
 - ④ 早期退職優遇制度の導入及び本俸表の改定(聖学院中学校高等学校)
聖学院中高教職員労働組合と事務折衝及び協議を重ねた結果、定年退職年度の10年度前から適用する早期退職優遇制度を新規に導入することとした。また、本俸表の改定を行ったが生涯本俸総額での増減はなく、平均的な年代別家計に対応した本俸の増減の改定とした。

2. 教育環境の整備

- (1) 主な改修工事、購入等(1千万円以上)
- | | (千円) |
|-----------------------|---------|
| 聖学院大学 高等教育施設建築・関連施設整備 | 334,950 |
| 学周長屋ラーニングコモンズ環境整備 | 11,720 |
| 図書館棟学習室アクティブラーニング環境整備 | 10,212 |
- (2) その他
聖学院大学
<GP>

2012年度に新たに始まった産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業は2年目となり、2012年度同様、新潟大学を幹事校とする「関越大学グループ」(17校)に属し、2013年12月4日付で交付内定が出された。

補助金額：グループ総額：197,279千円　うち聖学院大学：12,000千円

<科学研究費補助金> (千円未満切り捨て)

① 代表者分 (本学の教員が代表者の科研費)

16件 直接経費 10,730千円 間接経費 3,009千円

② 分担者分 (本学の教員が代表者の科研費)

7件 直接経費 640千円 間接経費 192千円

③ 分担者分 (他大学の教員が代表者の科研費)

5件 直接経費 1,035千円 間接経費 310千円

合計 28件 直接経費 12,405千円 間接経費 3,511千円

3. 聖学院各学校の主な事業

[聖学院大学・聖学院大学大学院]

(1) 記念事業

同窓会設立 20 周年記念式典が行われた。第一期生の頃には建設されていなかったチャペルでの厳粛な式典の後、同じく北キャンパスにあるエルピス食堂で行われた懇親会も盛会となった。

(2) 環境基盤の整備

① 「学周長屋」を活用したラーニングコモنزの設置

1 号館 1 階の既存施設であるラーニングセンター、インターンシップ準備室、キャリアサポートセンターなどの一角に、既存施設と一体感を持たせたラーニングコモنزが設置され「学周長屋」としてオープンした。リメディアル的なラーニングセンターからインターンシップやキャリアサポートなど卒業後を見据えた学びまで、ラーニングコモنزを中心として必要な段階に応じて相談できる機能が集約されたことにより、学生たちは共同学習空間での学びの中で生じた疑問などについて、さまざまな視点からアドバイスを受けることができるようになった。

② 図書館棟学習室アクティブラーニングスペースの整備

アクティブラーニングの裾野の広がりを実現するため、これまで教員研究室として使用されてきた図書館 2 階の 1 室、および図書館 4 階のグループ学習室を、アクティブラーニングに対応できるよう大幅に改装した。このスペースには、壁面に全面ホワイトボード、天井にプロジェクタが配置されており、また電子黒板や無線 LAN を整備し、自習やミーティングからグループワークやプレゼンテーションまで、幅広い用途で活用することができるようになった。

(3) 国際連携

- ① 交換留学制度を利用し、韓国からの交換留学生 4 名が本学で学び帰国した。
- ② 短期海外語学（文化）研修をアメリカ、カナダ、韓国、オーストラリアで実施している。

(4) 学生生徒・教職員等の活躍

- ① 第 92 回関東学生陸上競技対校選手権大会男子 2 部三段跳決勝優勝（金メダル）、同大会男子 2 部やり投決勝 3 位（銅メダル）、同大会男子 2 部走幅跳決勝準優勝（銀メダル）。

(5) その他

- ① 学友会代表委員会総会にて学友会機構を改正することが承認され、学友会規約をはじめとする内規なども整備され、委員会・部・同好会における課外活動の運営が円滑に行われるようになった。
- ② 地域貢献事業として、埼玉県の「元気な地域を創造する子ども大学推進事業」の一環として、周辺自治体とともに子ども大学あげお・いな・おけがわの学習プログラムに参画し、小学 4 年生から 6 年生を対象に講義を行った。
- ③ アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科では、4 名の博士学位（課程博士 2 名、論文博士 2 名）を授与した。

[聖学院大学附属みどり幼稚園]

(1) 新たなる教育事業への取り組み

- ① 聖学院小学校の 1 年生を、遠足を兼ねてお招きし、園庭を開放するとともに園児との交流会を行った。
- ② 2 学期より食育の観点から週 1 回の給食を開始した。
- ③ 5 月の連休の谷間の平日にお父さんオープンディを実施し、幼稚園での園児の様子を参観していただくと共に、希望者には園庭で園児が利用する木製テーブル

ルやベンチなどの製作を行っていただいた。

- (2) 教育研究の充実
さいたま・上尾キャンパス内にありチャペルを共用している聖学院教会との連携を強め、キリスト教保育の充実に努めている。
- (3) 環境基盤の整備
幼稚園舎およびプレイルームの耐震調査を実施した。この結果を基に今後必要に応じた対応をとる予定である。
- (4) 人事の活性化
園長が多くの責任を兼務しているために実質的に園の保育活動に十分関わることができない状況の中、園長代行および副園長を置き、さらにチャプレンの交代と合わせて複数による集団指導体制を整えた。
- (5) その他
 - ① 特別に支援が必要な園児に関しては、毎日の報告会などで教師間の共通認識を大切にし、園全体で一貫した指導が行えるように配慮した。
 - ② 前年度までの聖学院大学による子育て支援を目的とする「わかばクラス」に代わって、幼稚園が主催する2・3歳児を対象とする未就園児クラスを、前後期に分けて開設した。特に後期は幼稚園入園を前提としており、入園後の活動にスムーズに移行できるよう配慮した。
 - ③ 園児募集に向けて、親子で遊ぶ会や見学会の充実やホームページ、ブログ、ポスター、ちらしなどによる幼稚園の情報公開に努め、園の地域への浸透と遊びを中心とする保育の利点を広く知っていただくための活動を精力的に行った。

〔聖学院中学校高等学校〕

- (1) 記念事業
110周年（2016年度）記念行事等として記念誌発行、記念祝賀会開催などの検討を始めた。
- (2) 新たなる教育事業への取り組み
 - ① 電子黒板を設置（中1～高2の全HR及び理科3教室（物理・生物・化学））し、効果的に活用した。
 - ② 理科実験を中学3年間で150種類の計画と整備をする。
 - ③ IBについて検討委員会を発足し検討を始めた。
- (3) 教育研究の充実
 - ① 授業研究週間を年に4回実施した。教師同士が授業を見合い、学び合い、授業力を高めた。
 - ② SPPに理科分野から応募した（物理・生物・化学）。
 - ③ 21世紀型教育の研究を実施した。
 - ④ 帰国生サポートの研究を実施した。
- (4) 環境基盤の整備
120周年（2026年）記念事業で、中学棟及び体育館建設を検討し始めた。
- (5) 国際連携
タイの研修旅行を通じ国際ボランティアを考えた。
- (6) 学生生徒・教職員等の活躍
 - ① PBLで学会発表をした。
 - ② 第34回U-20プログラミングコンテストで中2生徒が経済産業大臣賞を受賞。

〔女子聖学院中学校高等学校〕

- (1) 新たなる教育事業への取り組み
英語国際教育プログラムの拡充を行った。

- ・ターム留学実施（オーストラリアの女子ミッションスクールであるフェアホルム・カレッジ）
- ・海外大学進学指定校推薦入学制度（海外 21 校の国公立・州立大学への指定校推薦入学の制度）（オーストラリア・グリフィス大学に進学）
- ・プログレッシブイングリッシュクラス（特選英語授業）

(2) 環境基盤の整備

- ① 防災対策を充実した。
 - ・各クラスに防災委員 2 名を置いた。
 - ・教職員による自家発電訓練を実施した。
- ② 消費電力の削減を図るためにチャペル内照明器具取替工事を行った。
- ③ 電子黒板を設置した。
- ④ 大震災に備えて、生活用水を確保する手立てを講じている。

(3) 国際連携

ケネディ米国駐日大使が来校し、日米国際交流プログラムを行った。ニューヨークの高校生と本校生が詩を通して交流した。

(4) 学生生徒・教職員等の活躍

- ① チアリーディング部 第 7 回アジアインターナショナルオープンチャンピオンシップ決勝進出(全国高校 6 位)、第 24 回全日本高等学校チアリーディング選手権大会(中学部門 12 位)、JAPANCUP2013 チアリーディング日本選手権大会出場
- ② バトミントン部 北区中学校バトミントン夏季大会(女子団体 3 位)
- ③ バスケットボール部 東京都高等学校体育連盟主催 女子バスケットボール夏季大会Kブロック(3 位)
- ④ 吹奏楽部 東京都中学校吹奏楽コンクールA組(金賞)、全日本吹奏楽コンクール都大会(銅賞)、東京都高等学校吹奏楽コンクールA組(銅賞)、都高等学校アンサンブルコンテスト 金管 8 重奏(銀賞)、2013TAMA アンサンブルフェスタ 高校の部 金管 8 重奏(銀賞)、都中学校アンサンブルコンテスト A 部門 クラリネット 8 重奏(金賞)・B 部門 金管 8 重奏(銀賞)
- ⑤ ディベート部 関東甲信越大会(準優勝)、全国大会予選(1 位)、全国大会(ベスト 16)
- ⑥ テニス部 東京都中学校新人選手権大会(個人の部) 第 4 ブロック大会ダブルス(ベスト 5)
- ⑦ 演劇部 東京都中学校連合演劇発表会(優良賞)、城東地区冬季合同発表会(優良賞)
- ⑧ 個人 Heiva i Maui 2013 ソロ部門(1 位)(高 II)、礼和流空手道北地区大会 テンカウント演武(最優秀賞)(中 3)、第 11 回礼和流空手道東京北地区大会(最優秀賞)(中 3)、ポンポン・バトントワリング・マーチングバンド Japan Cup 個人スポーツダンス部門(4 位)・Asia Open ダブルス Pom 部門(1 位)・Asian Open Open Pom 部門(1 位)(高 II)、第 47 回税についての作文コンクール(優秀作)(中 3)・(会長賞)(中 3)、All Star Challenge Competition 2013 Pom 部門 Junior-Large 編成(1 位)・Asia Open Cheerleading Championship 2013 エキシビジョン出場、ALL JAPAN CHEER DANCE CHMPIONSHIP CHEER DANCE 部門 中学生編成(3 位)(越谷市体育賞受賞)(中 3)、第 54 回日本武道館書き初め大覧覧会 日本武道館賞(高 I 2 名、高 II)、第 6 回 田辺聖子文学館ジュニア文学賞(優秀賞)(中 2)

(5) その他

7月～9月に希望者が着用できる準制服として女子聖の NEW STYLE である盛夏服を作成した。

〔聖学院小学校〕

- (1) 記念事業
校舎建替工事が始まる。
- (2) 新たなる教育事業への取り組み
東日本大震災以降休止していた5年生の英語キャンプを、場所を福島のプリティッシュヒルズから、長野の乗鞍高原ノーススターアルパインロッジに変更して再開した。
- (3) 教育研究の充実
5年生の国語と3年生の総合科におけるワークショップ型授業（iPad を使った授業）の研究授業と授業後に研究会を行った。
- (4) 教育研究の整備
全専任教職員に iPad を貸与し、授業等での活用を進める環境を整えた。
- (5) 環境基盤の整備
学内建築委員会を中心に、新たな聖学院小学校教育への取り組みに基づく新校舎の、内外観や設備についての協議を重ねた。
- (6) 国際連携
 - ① 4月21日から5月5日まで、4年生女兒1名がセイント短期留学に参加した。
 - ② 7月23日から30日まで、5、6年11名がオーストラリアホームステイに参加した。

〔聖学院幼稚園〕

- (1) 記念事業
100周年記念誌発行準備を進めている。
- (2) 新たなる教育事業への取り組み
週2日の給食、保育後の預かり保育を始めた。
- (3) 環境基盤の整備
屋上での保育活動充実のため、保護者会の協力を得て全面ウッドデッキを敷設した。各保育室の南側窓にオーニング（日除け）を設置した。園舎2階の絵本コーナーの充実を進めた。

〔聖学院アトランタ国際学校〕

- (1) 新たなる教育事業への取り組み
 - ① 校舎を教会やアフタースクールプログラム等に貸し、副収入を得るため、ピーチツリーコーナー市に特別使用許可内容変更申請を提出。
 - ② 6時まで3歳～6年生まで全員を預かれるようにジョージア州デイケア認可申請中。
- (2) 教育研究の充実
 - ① 「隣人を愛する」がテーマで、愛することは何かを学年レベルに合わせた仕方
で考える時間を繰り返し持ち、心の教育の大切さを考えた。
 - ② 水曜日に幼稚部で縦割り保育を取り入れた。
 - ③ 支援の必要な児童の割合が多くなっているため、個別指導・個人到達目標の設定・チェックリスト・視覚的にわかりやすい指示・クールダウンエリア
の設定等様々な工夫を日常的に取り入れるようになった。
- (3) 環境基盤の整備
 - ① 年度末にPTAの寄付により、新しく児童用9台、教師用10台のコンピュータ
を購入した。

- ② IT環境の充実、学校重要書類のサーバーを使つてのバックアップやクラウド保存によるバックアップを検討中。

(4) 国際連携

- ① 20周年記念として始まったサービスラーニングプロジェクトのひとつとして、今年フィリピンの孤児院へ、クリスマスカードと一緒に幼稚部ベークセールの収益金を寄付し、孤児院のこどもたちからも心のこもった感謝のカードを受け取った。
- ② 今年も聖学院小学校から小学生二人がセイントツ体験プログラムに参加、及び聖学院大学児童学科から大学生一人が研修プログラムに参加した。

(5) 学生生徒・教職員等の活躍

① 歌を通してのサービスラーニング

ファミリープロミスというホームレス援助団体の全国総会でテーマソングを歌ったのを皮切りに、オグルソープ大学ミュージアム日本の磁器版画展示会のオープニングで日本の歌を披露、世界の言葉でアメージング・グレースのレコーディング参加、NHKの百万人の「花は咲く」プロジェクト参加、ジャパンフェスト参加、プロアイスホッケーの試合で大観衆の前で児童有志が歌を披露。

- ② 小林一茶 全国小中学生俳句大会入選者3名。
- ③ 朝日新聞社主催「海とさかな」自由研究作品部門作文で2年生が優秀賞。
- ④ 英検では準一級合格者1名、その他2級7名、準2級3名、4級5級1名。
- ⑤ ピアノ レイチェルハワードコンペティションで4年生が、3位入賞
- ⑥ 6年生が、フィギュアスケート、サウスカロライナ州グリーンビルオープン、フリー2位、ジョージア州アトランタオープン、ジャンプ1位、サウスアトランティック地区大会コンパルソリー5位

(6) その他

- ① グローバル人材育成のため、自民党所属の国会議員28名が参加する海外子女教育推進議員連盟が秋に発足し、設立総会にて校長がセイントツの学校紹介をし、支援の必要性を訴えた。冬から春にかけて、2015年からの政府援助獲得の可能性を模索し、外務省へ助成金要望書を提出する準備に取り組んだ。
- ② 創立記念礼拝後、重度の障がいを持つお子さんのお母様にご自分の信仰の証をつづられた本「君は愛されるため生まれた」の読み聞かせにいらして下さった。

[法人]

(1) ASF総会・推進委員会

女子聖学院中学校高等学校クローソンホールにて、第27回ASF総会・推進委員会が開催された。ASF2大重点プロジェクトから佐藤 慎聖学院幼稚園園長による「新園舎完成の感謝」、村山順吉小学校校長による「新校舎のビジョン」が熱く語られた。

(2) 聖学院小学校立替工事起工式

建替え工事予定地において11月7日に起工式が執り行われ、阿久戸光晴理事長の式辞の後、鍬入れが行われた。

(3) さいたま・上尾キャンパス教職員駐車場の土地の一部売却

高等教育施設の整備および1号館の耐震補強工事等将来計画のため、さいたま市北区日進町3丁目357番地1および358番地2の土地の売買契約調印を行った。